



怪異研究事始め

イラスト：禅之助

富安陽子 大注目の最新作！

明治時代を舞台にした長編シリーズ第1作

運命に導かれ、日本に誕生して間もない
博物館（現在の東京国立博物館）にやってきた少女イカル。

その蔵で怪異の研究に取りくむ
老人を手伝ううち、
不思議な事件に巻き込まれていく。



明治時代 あやかし× ミステリー

舞台は明治時代！

舞台は文明開化にわく明治時代の東京・上野周辺。西洋文明を取り入れて博物館や動物園を作ったり、鉄道馬車などの新しい交通手段が生まれる一方、江戸情緒もまだ残っている時代。

あらすじ

運命に導かれて、文明開化の東京にやってきた、大阪の古物商の娘・花岡イカル。親戚のトヨの用事で上野の博物館を訪れた際、館長に目利きの才を認められ、博物館で怪異の研究をしている織田賢司（＝通称トノサマ）の手伝いをすることになる。

トノサマの指示で古蔵の整理を始めたイカルだったが、目録と蔵の品の照合を終えた後、黒手匣（くろてばこ）という品物だけが何者かによって持ち去られたことが発覚した。いったい誰が、何の目的で盗んだのか？隠れキリシタンゆかりの品とも噂される、この匣に隠された秘密とは？

イカルとトノサマ、そしてトノサマの奉公人のアキラは、深まる謎に迫ることに。

ここがポイント！

●主人公は、目利きの才をもつ少女という、珍しい設定。気立てが素直で、いきのいい大阪弁で感情が表に出てしまうイカルは、誰もが好きになる主人公です。若くして名品の価値をぴたりとあてる姿は、さすがにカッコいい！

●怪しげな古道具屋やカソリックの天主堂などを巡りながら、イカルが不思議な匣の秘密に迫っていく過程の面白さは、抜群のストーリーテラーである著者ならではのです。

●第165回直木賞受賞作『星落ちて、なお』の主人公でもある河鍋暁斎の娘・トヨなど、実在の人物が多数登場。当時の資料や古地図をもとに時代の雰囲気を生き生きと甦らせ、そこに驚くべき謎を秘めた物語を織り込んだ魅惑の作品です。

おもな登場人物

◆花岡イカル

大阪の古物商の娘。13歳。若いながらも、古道具を見立てる目利きの才を持つ。



◆河鍋トヨ

イカルの遠縁にあたる少女。15歳。実在の人物で、絵師・河鍋暁斎の娘、弟子でもある。

◆織田賢司（トノサマ）

織田信長直系の子孫。実在の人物で、維新後は博物館に勤務していた。

◆アキラ

トノサマの奉公人。どこか謎めいた少年。

◆町田久成

実在の人物。博物館初代館長を辞任後、仏門に入る。

◆田中芳男

博物館2代目館長。「日本の博物館の父」と呼ばれる実在の人物。



書店担当者さんから
絶賛の声、続々！

◆定価 1,540 円〈ソフトカバー〉

中学生から／342 ページ／19cm×13cm

ISBN978-4-03-814510-0



1章
立ち読み
公開中！